

優秀賞

題材【CASE3…底なし沼】

なぜ、こんなことになったのか。
気づいたときには、腰から下は、沼の中だった。
手の届く場所にある草木をつかんでも、
俺の体重を支えることはできず、
ブチブチと根元から抜けるだけ。
もがくほどに、泥が体を包み込んでゆく。
シヨベルカーでもない限り、
この窮地から逃れるすべはないだろう。
俺は、どうやら助かりそうにないようだ。
とうとう、泥は肩の高さにまで達した。

【応募作品】

すると、突然声が聞こえた。

「お前、何してんだ！」

——助かった！

声の主は、ふだんなら絶対に声をかけられたくないような、
強面のガラの悪い男だったが、今の俺には神に見えた。

男はこう続けた。

「おい！ お前がブチブチと引っこ抜いた草はな、

俺たちが密かに育てていた、

闇ルートで高く売れる薬になるんだ！

それをダメにしやがって！

タダで済むなんて、思っていないだろうな！」

10人以上の屈強な男たちが、

いつの間にか沼のまわりに集まってきていた。

ほどなく俺は、男たちに沼から引っこ張り出された。

しかし、命が助かったのかどうかは、まだ分からない。